

青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

教員免許状更新講習「学校教育と体験活動A・B」

1. 趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに理解を深め、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、大学教員や自然の家職員の講義に加え、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

2. 主催・共催

主催：国立大学法人 宮城教育大学

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3. 事業の概要

(1) 期日 A：平成29年8月8日（火） B：平成30年1月20日（土）

(2) 参加者

①参加対象及び人数

教員免許状更新対象者 各回30名

②参加人数 [48名 (A：30名)、(B：18名)]

A：幼稚園・保育園教諭（17）、小学校教諭（6）、中学校教諭（3）、高等学校教諭（4）

B：幼稚園・保育園教諭（7）、小学校教諭（3）、中学校教諭（7）、高等学校教諭（1）

4. 企画・運営のポイント

宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力しながら講習を実施した。

5. 日程

時刻	プログラム	内 容 等	場所
8:30	受付		玄関ロビー
9:00	【開講式】	インフォメーション（事務局）	大研修室
9:10	【実習1】		
10:10	「アイスブレイキングの手法」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	大研修室
10:10	【講義1】		
11:10	「学校教育と体験活動A」 「学校教育と体験活動B」	講師：宮城教育大学 田端健人教授 講師：宮城教育大学 梨本雄太郎教授	大研修室
11:10	【講義2】		
12:00	「体験学習法の理解」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	大研修室
12:40	【実習2、3】		
14:10	「火起こし体験」「焼板作り」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	工作館
14:10	【実習4】		
15:40	A「屋内オリエンテーリング」 B「雪上ハイキング」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	屋内 屋外
16:00	【実習5】 「ふりかえり」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	大研修室
16:30	【試験】 「筆記試験」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	大研修室
17:10	【評価】 「アンケート記入」	講師 国立花山青少年自然の家 職員	大研修室
17:15	【閉講式】	インフォメーション（事務局）	大研修室

6. 主な活動内容



【実習1】「アイスブレイキングの手法」



【講義1】「体験活動B」



【実習2】「火おこし体験」



【実習3】「焼き板づくり」



【実習4】「屋内オリエンテーリング」



【実習4】「雪上ハイキング」

7. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果<48人中48人回答>

「体験活動A」	満足：93.3%	やや満足：6.7%	やや不満：0%	不満：0%
「体験活動B」	満足：94.4%	やや満足：5.6%	やや不満：0%	不満：0%
「総合」	満足：93.8%	やや満足：6.2%	やや不満：0%	不満：0%

(2) 参加者の声

- ・自分の見方、考え方をふりかえり、自分を広げる良い機会となりました。
- ・学校教育の中で、体験活動は学習能力とは異なるものの大切なものであると実感しました。
- ・アイスブレイキングががとても参考になり、資料をもらえるとさらに良いと思った。
- ・アイスブレイキングの手法を、生徒会活動や学級開きにおいて活用して人間関係づくりに役立てたいと思った。
- ・活動をふりかえる体験活動のサイクルは、意識して取り入れたいと思います。
- ・安全面に配慮しつつ明確に「ふりかえり」を行うことができた点がとても良かった。
- ・自然体験活動はやはり楽しく、このような講習会を続けてほしいと思った。

(3) 成果

- ①参加者の満足度が高かったことと自由記述に「体験活動」の必要性に気づく記載があり、体験活動のプログラム構成に成果があったと考える。
- ②開講式直後に「アイスブレイキングの手法」を実施することにより、緊張感が薄れてグループワーク等にスムーズに移行することができた。

(4) 課題

- ①体験活動Aの参加者から「アイスブレイキングの資料があると良かった」という声があり、体験活動Bにおいては、その反省を活かし、事前に準備し配布した。今後も、参加者が必要とする資料等の整備に心がける。
- ②自然体験活動の必要性を伝えるために、荒天時における屋内での活動も、できるだけ自然体験ができる内容に改善していきたいと考える。